

# interview 水戸市長旗第7回東日本少年軟式野球大会に向けて

小学校4年生のときに全国大会で第3位になったときが一番うれしかったです。

東日本少年軟式野球大会ではフォアボールでピンチをつくらないよう、1イニングを3人で抑えたいと思います。



2 阿部 翔太君

野球はチームプレーです。みんな活躍で試合に勝つときは、とてもうれしいです。

東日本少年軟式野球大会ではこの悔しさをバネに正々堂々と宮城県代表として頑張ります。



1 大庭 佳鏡君

試合に勝ったときのうれしさは格別です。残念ながら横浜スタジアムには行けなかったけれど、東日本少年軟式野球大会では、このチームでできるだけ長く試合ができるよう頑張ります。



5 引地 蒼杜君

小学校4年生のときに、翔太君と一緒に全国大会に出場できたことが一番うれしかったです。

東日本少年軟式野球大会では、自分ができるところを精いっぱいできるように頑張ります。



7 栗原 侑大君

みんなで力をあわせて優勝できたことが一番うれしいです。

キャプテンとしてみんなをまとめ、東日本少年軟式野球大会では、自分たちができることをしっかりとやって優勝を目指します。



10 森 進之介君

野球を通してたくさんの人とかかわり、チームワークや団結力を強められたことがとても良かったと思います。

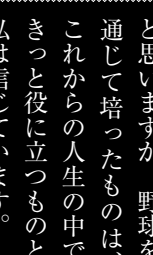
東日本少年軟式野球大会では、宮城の野球を認めてもらえるように頑張ります。



16 村上 大翔君

これまでの試合で、苦しい場面を数多く乗り越ってきたことで、選手たちは一段と成長しました。

東日本少年軟式野球大会では、さらに成長して帰ってきてほしいと思います。

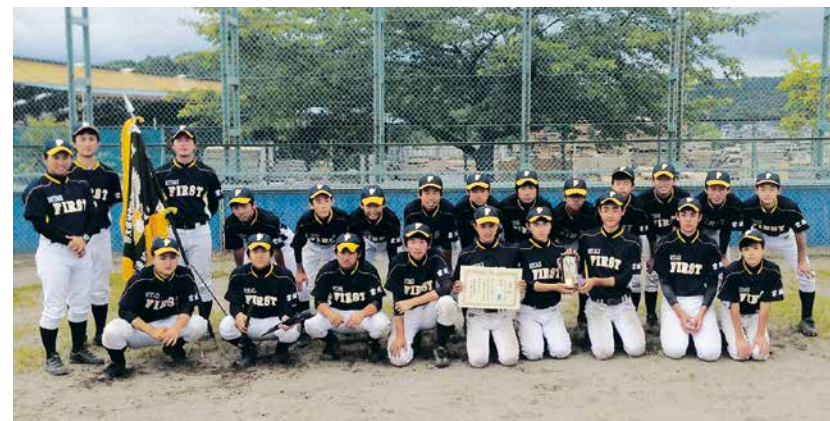


30 櫻井 直樹監督

これからの野球を続ける子ばかりではないと思います。野球を通じて培ったものは、これからの人生の中でずっと役に立つものだと思います。

白石市では、中学校の野球人口が減ってきています。野球を通じて人間力を高め、技能を高めて子どもたちの力を伸ばしていきたいと思っています。

そして、これからも野球の素晴らしさを子どもたちに伝えていきたいと思っています。



▲宮城県大会で見事優勝し、選手、監督、コーチとともに（大崎市 鹿島台球場にて）

初回の2点を守り抜いて、2対0で決勝に進んだ。

決勝の相手は、松島中学校（松島町）。1回裏に1点を先制されたものの、2回に同点に追いつき、3回にも1点を追加して逆転。この1点を守り抜き、2対1で優勝を飾った。

かつて、円田中学校（蔵王町）が宮城県大会で準優勝し、東北Aブロック予選大会が本県で開催されたため、開催地枠で予選会に出場したことがあったが、仙南代表のチームが宮城県大会で優勝するの

は初めて。全国大会まであと2勝！期待は高まった！

よいよ全国大会出場権をかけた、東北Aブロック予選会が7月8日、山形県米沢市菅野球場で開催された。この日は、梅雨の中休み。朝から真夏を思わせる日差しが球場全体を包み込んでいた。

東北Aブロック予選会には、宮城県代表の「オール白石」のほか、福島県代表の「いわき松風クラブ」と開催地である山形県代表の「山形四中クラブ」と「東根市立第一中学校」の4チームが出場した。初戦の相手は、山形県第一代表の「山形四中クラブ」だ。

試合は4回まで無得点のまま進み、試合が動いたのは5回表の山形四中クラブの攻撃。ダブルプレー崩れで残ったランナーが3塁まで進み、ライト前ヒットで1点を先制。この1点を守りきった山形四中クラブが接戦を制した。

結局、東北Aブロックは、福島県代表の「いわき松風クラブ」が優勝。2年ぶりの全国大会出場を決めた。

「オール白石」は、全国大会への切符を手に入れることはできなかったが、8月8日から茨城県水戸市などを会場に開催される、「水戸市長旗第7回東日本少年軟式野球大会」に宮城県代表として出場する権利が与えられたのである。

宮城県でこの大会に出場するのは初めて。「オール白石」での試合はこの大会が最後。選手たちには、精いっぱいプレーで悔いが残らないよう頑張ってもらいたい。選手たちの熱い夏はまだ続く！



▲東北Aブロック予選会の山形四中クラブ戦でベンチを勢よく飛び出す選手たち（山形県米沢市 米沢市菅野球場にて）

現在、全国の軟式少年野球チームは、減少の一途をたどっており、本市も例外ではない。「オール白石」の選手たちが小学6年だった2014年（平成26年）では、本市の小学生の軟式野球チーム数は6チームあった。しかし、現在は3チームと半分になった。

小学生の軟式野球選手の減少は、すなわち中学生の軟式野球選手の減少につながる。（公財）日本中学校体育連盟が行った全国中学校体育大会競技加盟校の調査によると、競技人口トップの座をサッカーに奪われた2013年（平成25年）では、242,290人であったが、2016年（平成28年）には185,314人に減っている。実に3年間で56,976人も野球少年がいなくなっているのだ。

中学生のスポーツ人口の減少は、サッカーやバスケットなどでも同様ではあるが、その減少数は軟式野球ほどではない。2020年には、56年ぶりに夏季オリピックが日本で開催される。東京オリピックでは、追加種目として野球が選ばれている。

また、今年は東北楽天ゴールデンイーグルスが、2013年（平成25年）の日本一以来の快進撃を続けている。

全国大会への出場を目指して挑んだ20人の野球少年たち。一心不乱に野球に打ち込む姿が、この危機的状況に警鐘を鳴らしてくれたのではないだろうか。私たちは、野球少年を増やすためにどうしたら良いか、考えるときが目の前に迫っている。

## みんな！ 野球やってみないか！



【特集】 今、中学生の野球が熱い！ 終わり